

令和 6 年 7 月 1 0 日

## 令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
高梁市立有漢東小学校	高梁市教育委員会	公立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
高梁市立有漢東小学校	<a href="https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu">https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu</a>

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
高梁市立有漢東小学校	<a href="https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu">https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu</a>	<a href="https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu">https://ukanhigashisyo.wixsite.com/site/foreignlanguageedu</a>

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

有漢中学校英語科教員と ALT が「わくわくイングリッシュ科」の授業を行っている。  
令和 7 年度有漢学園（義務教育学校）への移行に備え、小学校入学から中学校卒業までの 9 年間を見通した教育課程を編成している。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

## &lt;特記事項&gt;

参観日等を利用した授業公開、児童・保護者アンケートをもとにした学校運営協議会での取組状況の評価を行っている。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、小学校1・2年生で「わくわくイングリッシュ科」を実施し、中学校から派遣された英語科教員やALTとの英語学習活動を通じて、異なる言語や文化への関心を高め、異文化を尊重できる心を育てるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるものである。

本特例を実施している有漢東小学校では、授業に歌やゲーム、スモールトーク等の活動を多く取り入れたことで、英語に慣れ親しむことができている。「英語の学習が好き」と肯定的な回答を行った児童は約8割である。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「生活科」の時数の一部を充当して実施している「わくわくイングリッシュ科」では、英語を用いながら自分の思いや願いをもって接することができる態度や、相手や場所を考えて接することができる態度を育てており、学習指導要領に示す目標の達成に向けて取り組むことができている。

本特例を実施している有漢東小学校では、低学年から体を動かしたり、ALTの発音をまねたりしながら英語に親しみ、楽しく学習することができ、中学年での外国語活動につながっている。有漢東小学校で実施した児童アンケートでは、「外国の人と英語が話せるようになりたい」と約8割の児童が肯定的な回答をしている。

保護者アンケートでは、「学校は、英語学習に積極的に取り組んでいますか」の質問では、約8割が肯定的な回答を行っている。

一方、「子どもは、英語に対して興味・関心が高まっている」と回答した保護者の割合は、約6割に留まっている。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

3で示された課題を踏まえ、英語に慣れ親しむことを目標とし、より実生活に近いコミュニケーションの場面を設ける等の、授業の質的な改善と充実を図ることが必要と考える。そのために、学校訪問等での授業参観を通して、目的、場面、状況を明確にするための指導方法について助言等を行っていく。

また、小学校高学年・中学校の各学年段階において、4技能5領域の育成につなげるために、小学校と中学校の関連を示したCAN-DOリストを活用し、系統的な指導を行うことができるようにする。

「わくわくイングリッシュ科」の取組については、保護者が子どもの英語学習の様子を十分につかみきれていないことも考えられる。学校は引き続き、授業公開や学校だより等で、英語学習の様子を保護者に積極的に発信していく必要がある。